Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

LEMA

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

品番　LK381-5111-3

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

TR300

クボタロータリ専用機

取扱説明書

TR300

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

Operator's Manual

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ガソリン燃料

チョークレバーの調節

本製品の使用目的について

本製品は，農業機械であり，農作業以外では使ってはいけません。
夜間作業はしないでください。

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠安　全　第　一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げの販売店に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危　険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警　告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注　意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重　要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補　足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

目　次

⚠安全に作業するために

⚠安全に作業するために ..... ⚠-1
1．運転するまえに..... ⚠-1
2．始動するとき ..... ⚠-2
3．移動，作業するとき..... ⚠-3
4．作業が終わったとき..... ⚠-6
5．⚠表示ラベルと貼付位置..... ⚠-10
6．⚠表示ラベルの手入れ..... ⚠-12

サービスと保証について

サービスと保証について..... 1

各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称..... 2
各部の名称とはたらき..... 3
主クラッチレバー..... 3
変速レバー..... 3
エンジンスイッチ..... 4
リコイルスタータ..... 4
燃料コックレバー..... 4
チョークレバー..... 4
スロットルレバー..... 4
燃料キャップ..... 5
マフラ..... 5

作業前の点検

作業前の点検..... 6
調子良く作業するために..... 6

運転のしかた

エンジンの始動のしかた..... 8
エンジンの停止のしかた..... 9
ロータリ専用機の発進のしかた..... 10
ロータリ専用機の停止のしかた..... 10
ならし運転（最初の 10 時間まで）..... 10

ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

エンジンオイル..... 11
ミッションオイル..... 11
エアクリーナエレメントの清掃..... 12
フィルタポットの清掃..... 12
ハンドル位置の調節..... 13
主クラッチの調節..... 13
抵抗棒位置の調節..... 15
培土機の取付けかた..... 15
耕うん爪の取付けかた..... 16
長期格納時の手入れ..... 16
タイヤ空気圧の調節..... 16
使用後の清掃..... 16
燃料の抜取り..... 17
車両で運搬するときの注意..... 17
廃棄物の処理について..... 17
洗車時の注意..... 18

付表

付表..... 19
主要諸元 19
標準付属部品 20
主な消耗部品一覧表 20

⚠安全に作業するために　　必ず読んでください。

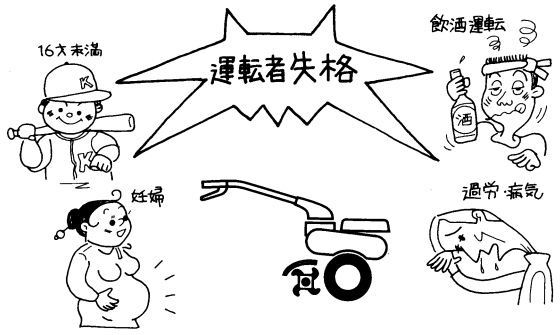
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 運転する前に

■使用する人は

機械の運転操作，特に主クラッチ**[切]**はすばやくできるよう，よく練習し，十分に慣れてから作業してください。
次の項目に該当する場合は，機械を使用しないでください。

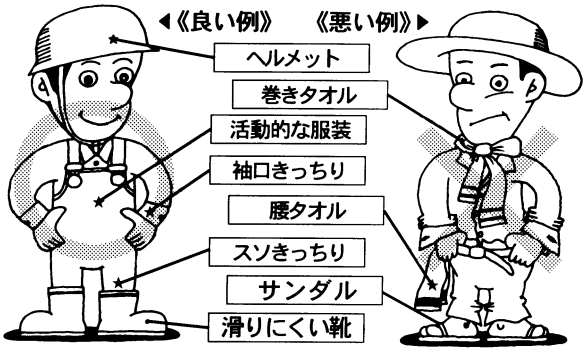
- 本書及びラベルの内容が理解できない人
- 視力不足等のため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき，また妊娠中の人
- 16 才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信のない方



■使用する人の服装は

- 回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になる，だぶついた服，腰タオルなどはやめてください。
- ヘルメット，安全靴，保護メガネや手袋などを必要により着用してください。

作業時の服装



■周囲への注意

- 子供，ペットを近づけないでください。
- 見物人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者がいるときは，互いに注意してください。

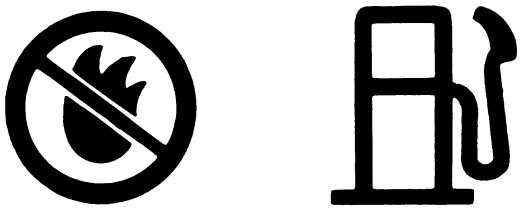
⚠安全に作業するために

■他人に貸すときは

● 事前に運転のしかたを教え，**[取扱説明書]** を必ず読んでもらってください。

■給油・注油するとき【火気厳禁】

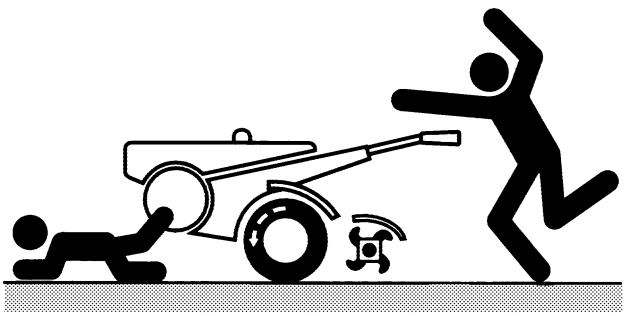
● 燃料の給油・各部への注油時は必ずエンジンを停止し，規定量以上入れないでください。
● エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
● 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
● 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。
● 燃料補給後，給油キャップはもれないようしっかり締めてください。
● こぼれた燃料はふき取ってください。



2. 始動するとき

■エンジンを回すとき

● 必ず本機，ロータリ（作業機）の主クラッチレバーを **[切]** り，変速レバーは **[中立]** にして，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
● もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。



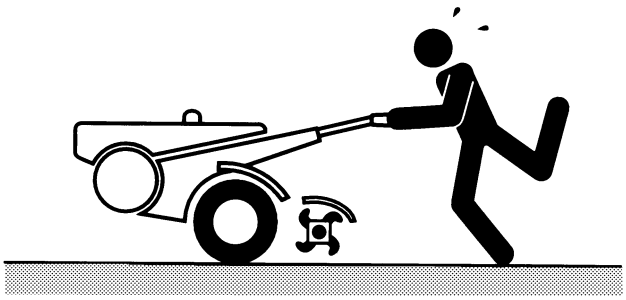
■排気ガスに注意

排気ガスによる一酸化炭素中毒のおそれがあるので，換気の悪い所（ハウス，車庫等）では使用しないでください。

3．移動，作業するとき

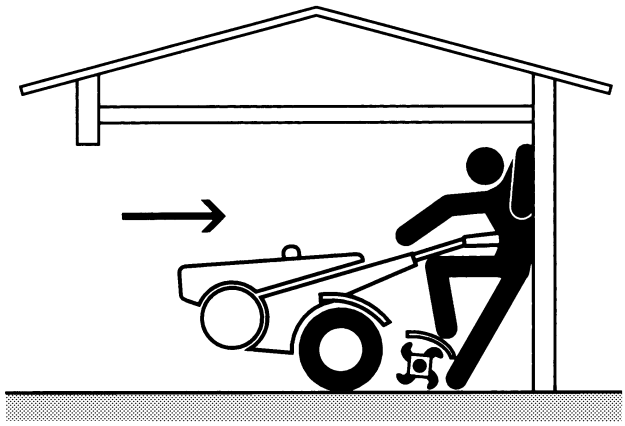
■発進するとき

- 速い速度での走行は十分注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの**[入]**はゆっくり，**[切]** はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり，急発進，急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。



■ハウス，車庫等での移動

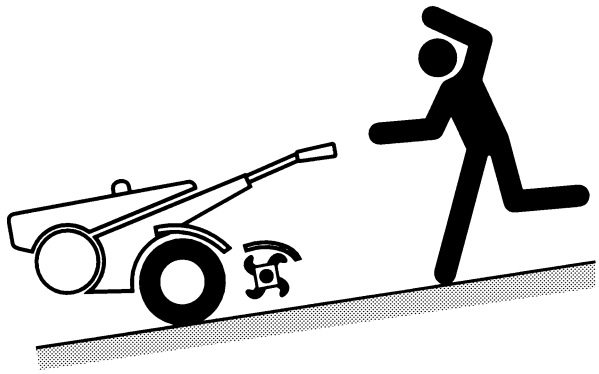
- 後方の壁，支柱，天井など障害物にはさまれるおそれがあるので，エンジンを停止して手で引いて移動してください。



⚠安全に作業するために

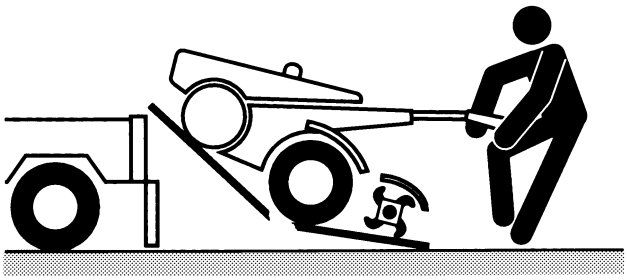
■坂道を移動するとき

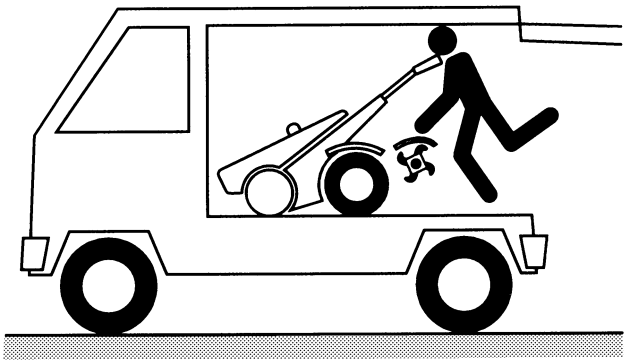
- 坂道，ほ場の出入り，畦の乗越え等の途中で主クラッチを**［切］**ったり，変速を**［中立］**にすると，機体が思わぬ方向に進み危険です。
- 変速操作は，機械が平坦な場所以外では行なわないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸，カーブの多い路上で高速運転すると，転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。



■運搬・積降ろしするとき

- 積込み・積降ろしは，平坦で交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
- アユミ板は丈夫ですべり止めのついた，機体重量に耐えるもので,トラックの荷台の高さ［１］に対し，アユミ板の長さ［４以上］のものを使用し，確実に固定してください。
- 足元に注意して，積込みは**［前進１段］**，車速は最低速。積降ろしは**［後退方向］**で，エンジンは**［停止］**して,ゆっくりおろしてください。
- 車などで運搬するときは，必ず荷台に天井がない車を使用してください。
- 燃料コックレバーを必ず［ 停止 ］にし，給油キャップはもれないようしっかり締めてください。燃料もれが発生し，火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定は前部プロテクター，抵抗棒，ハンドルの 3 箇所を使ってロープ掛けを行ない，確実に床に固定してください。





■耕うん作業するとき

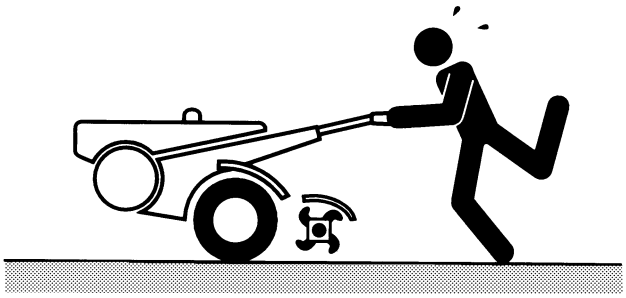
- 爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中，機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがありますので，いつでも主クラッチが［切］れる姿勢で運転してください。
- 作業前に，ほ場の状態をよく確認して，石・材木･針金･空カン･空ビン等を取除いてください。
- エンジン本体，マフラ周辺，配線部にワラくずがたまっていると危険です。作業前・作業後に点検し，きれいに取除いてください。
- 周辺の枯れ草やたい積ワラ等に機械のマフラが接触すると危険です。作業前に取除くか，移動させてください。
- ほ場の中や周囲にある支柱，樹木や段差などは，作業前に位置を確認し，転倒・転落しないよう安全な距離を保って，近づかないよう作業してください。
- 長いワラ・草など作業に支障のあるものは，作業前に取除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し，転倒などのおそれがあります。
- ロータリ後部カバー（整地板）は，点検作業時以外正常な位置にもどしてください。

■回転している爪に注意

- ハンドル部を持上げ旋回するとき，足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪に巻込まれるおそれがあります。

■ほ場が硬いとき

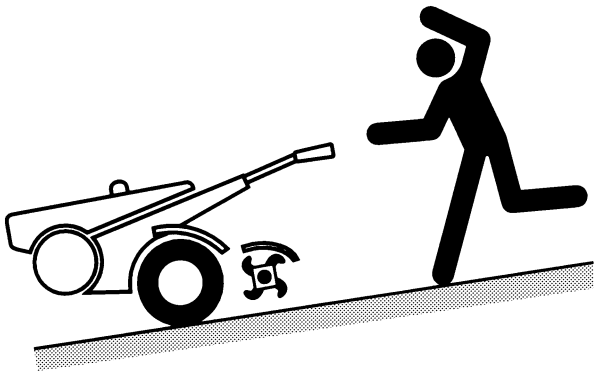
● 硬いほ場では車速を遅めにして，耕深も浅めで作業を行なってください。機体が飛出すおそれがあります。



■機械から離れるとき

● エンジンは必ず停止させ，平坦で安定した場所に停車してください。移動・落下するおそれがあります。
(やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。)

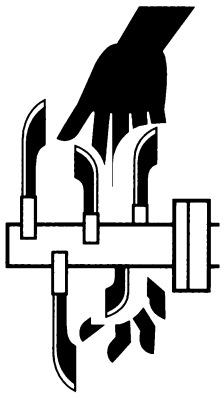
● 周囲に草・ワラなど燃えやすいものがある場所に止めないでください。火災のおそれがあります。



4. 作業が終わったとき

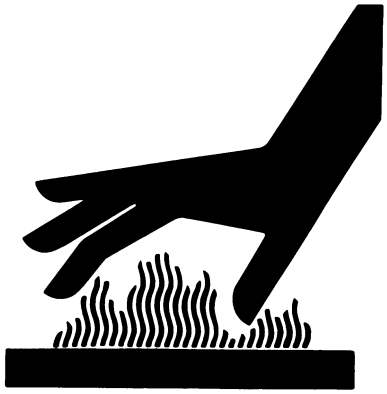
■掃除をするとき

● 車軸（ロータ）・爪軸（ロータリ）等に巻付いた草・ワラ・泥土等を取除くときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。



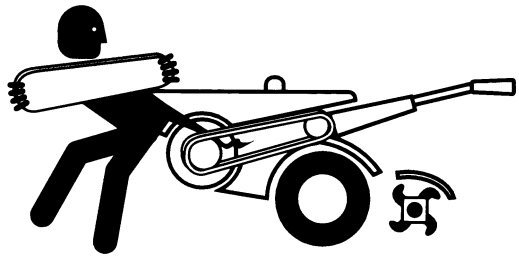
■点検・整備をするとき

- 点検，整備，アタッチメントの脱着などは，機械が転倒しない平坦な所に機械を安定させて，エンジンを止め，高温部が冷めてから行なってください。



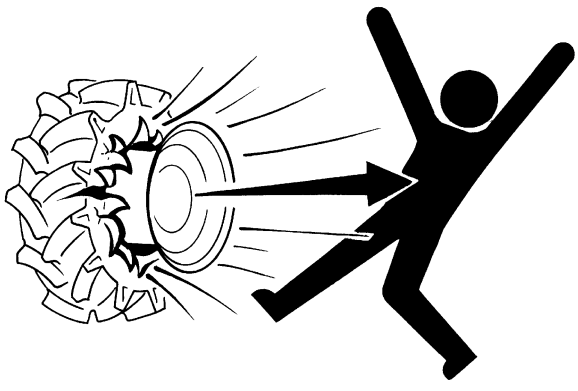
■カバー類は必ずつける

- ベルトカバー，PTO 軸カバーなどの防護カバーを取外すときは，巻込まれるおそれがあるので，必ずエンジンを停止してください。
- 取外したカバー類は元通り組付けてください。



■タイヤの整備

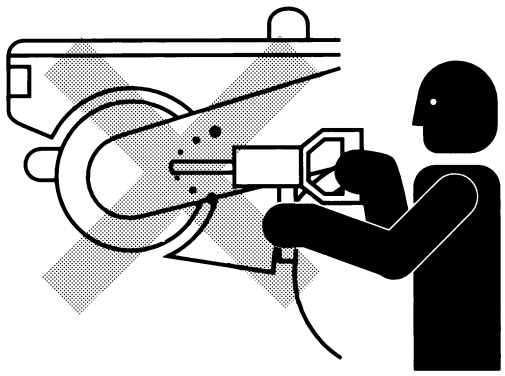
- タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を，必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり，死傷事故を引き起こす原因になります。
- タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
  (特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)



⚠安全に作業するために

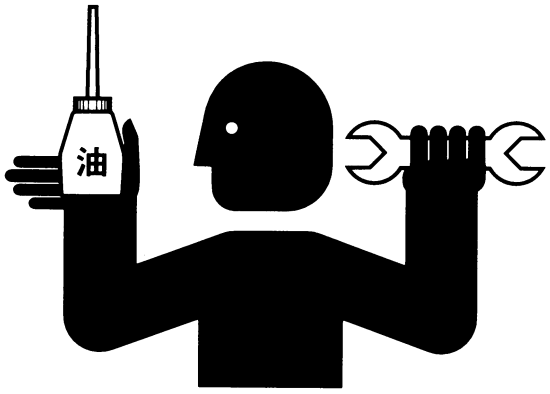
■機械の改造禁止

● 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



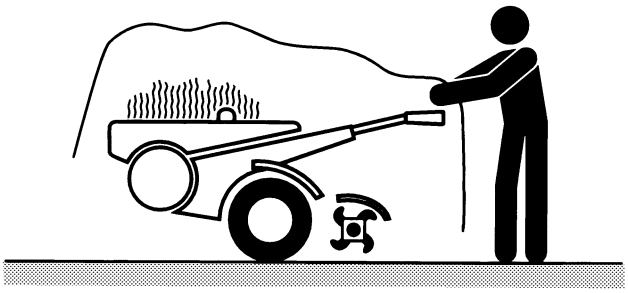
■１年毎の定期点検を

● 機械の整備不良による傷害事故などを未然に防止するため，１年毎に定期点検・整備を受け，特に燃料パイプは，２年毎に交換して安全に作業できるようにしてください。



■格納するとき

● 機体に保管用カバーをかけるときは，火災予防のため高温部が冷めてから行なってください。
● 火災防止のため，草・ワラ等可燃物のあるところでの保管はしないでください。



■公道走行禁止

● このロータリ専用機は，道路運送車両法の小型特殊自動車には該当しません。ロータリ専用機で公道を走行すると，道路運送車両法に違反します。公道を移動するときは，トラックに積んで運搬してください。

■廃棄物の処理について

● 廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
● 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
● 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
● 廃油，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。

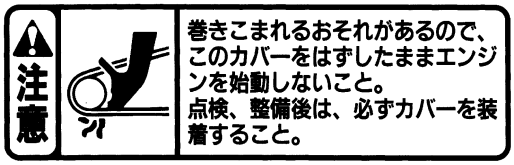
■夜間作業の禁止について

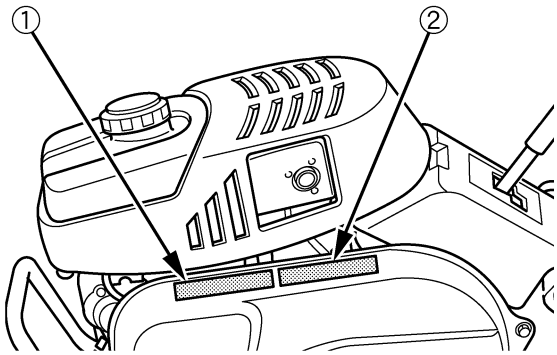
● 本機は夜間作業灯を装備していませんので，夜間作業はしないでください。思わぬ事故になるおそれがあります。

5. ⚠表示ラベルと貼付位置

① 品番　60932-4825-1

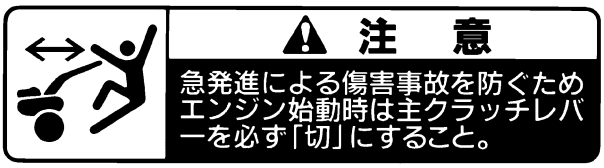
② 品番　62451-2811-1

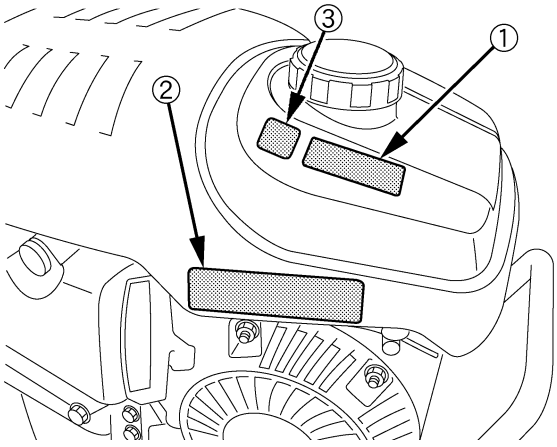




① 品番　LK011-4724-1

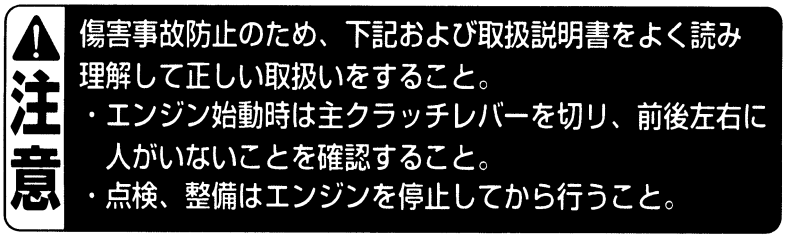
② 品番　60932-4823-1



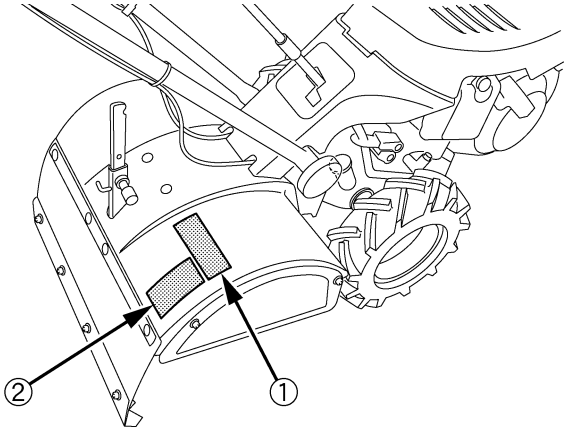


③ 品番　KK221-4749-1

① 品番　LK011-4715-1



② 品番　64071-4881-1



6. ⚠表示ラベルの手入れ

- ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
- ラベルが貼付けされている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，保証書を添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**［ご相談窓口］**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際　(1) 商品名と車台番号
　　(2) 搭載機関の型式名と機関番号
をあわせてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警　告

＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になりますのでご注意ください。

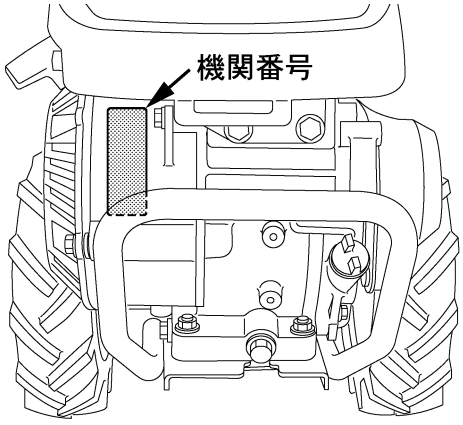
◆認定番号

安全鑑定の農機型式名及び番号が必要な場合は，下記の型式名及び番号をご使用ください。

型式名	安全鑑定番号
クボタ TR300	29049

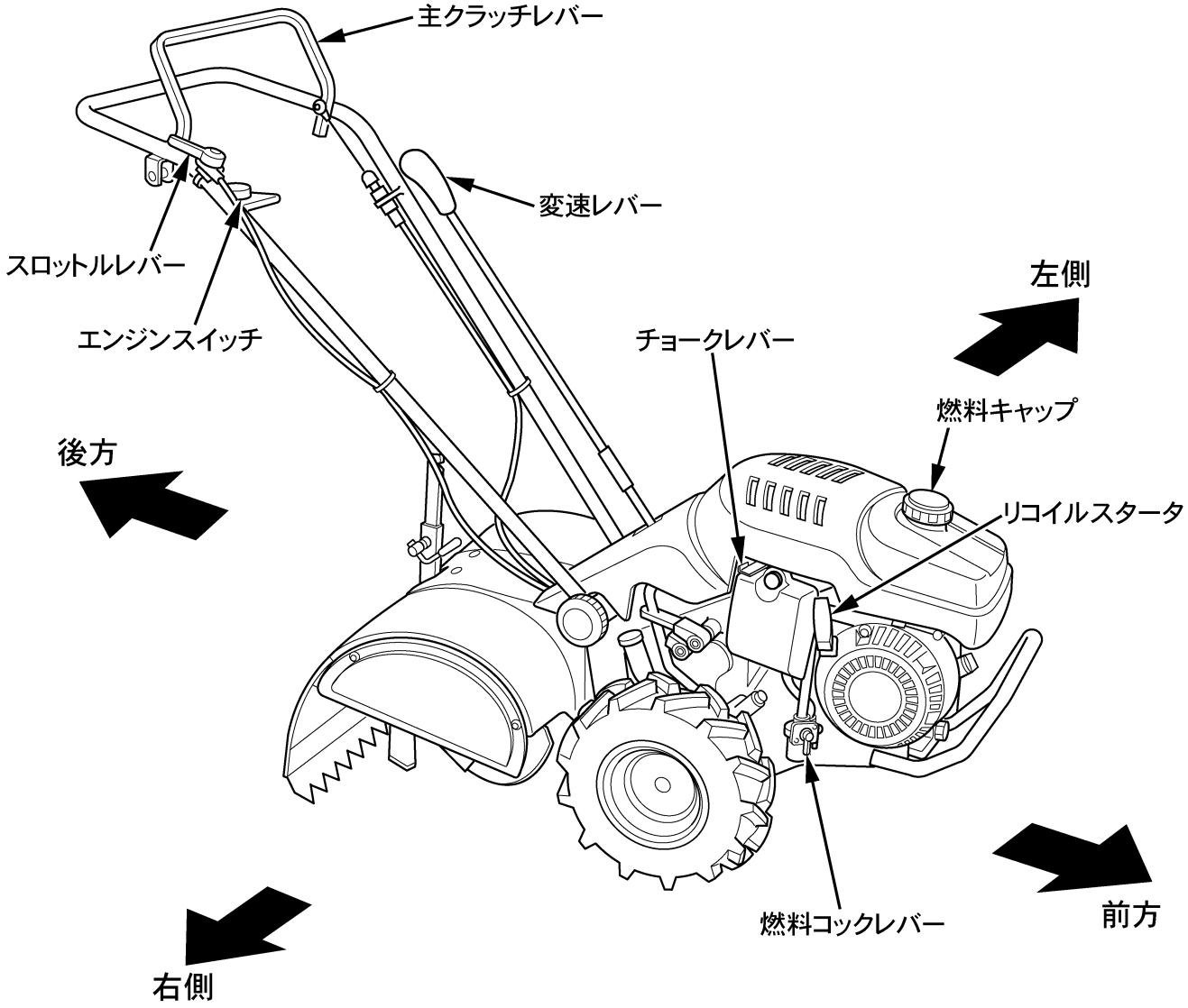
■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



各部の名称と装置の取扱い

機体方向説明と装置の名称



各部の名称とはたらき

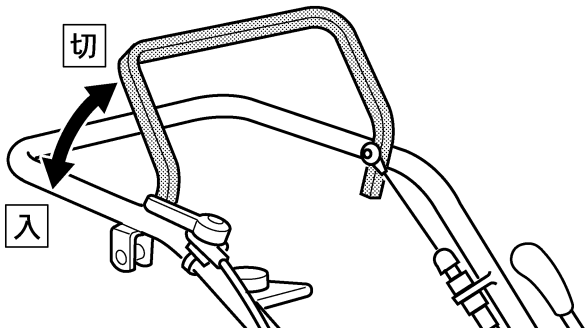
■主クラッチレバー

警　告

＊ 傾斜地では，ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので，主クラッチをゆっくり操作して下さい。

＊ 狭い場所の運転についてはエンジンの回転を低速にし，後方や上方などまわりの安全を確かめ，ゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

エンジンからの動力を断続します。
（1）レバーを握るとクラッチが**［入］**ります。
（2）レバーを離すとクラッチが**［切］**れます。

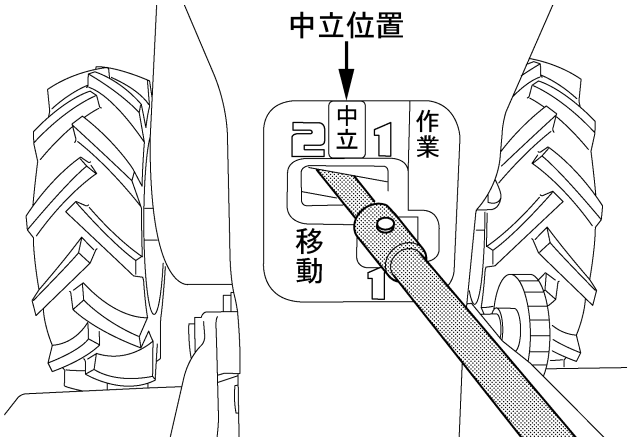


■変速レバー

警　告

＊ エンジンを始動する前に，必ずレバーを［中立］にしてください。

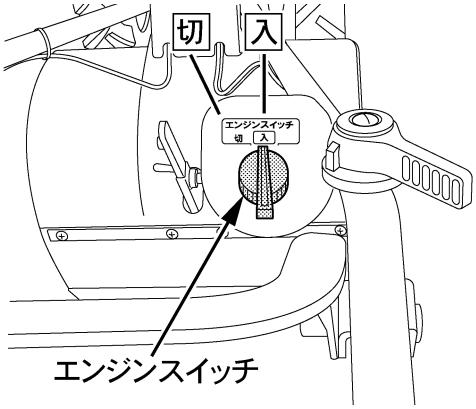
変速操作は主クラッチ**［切］**で行います。
（1）変速は前進２段です。
（2）ロータリは，作業（前進１段）で，**［正転］**です。



各部の名称とはたらき

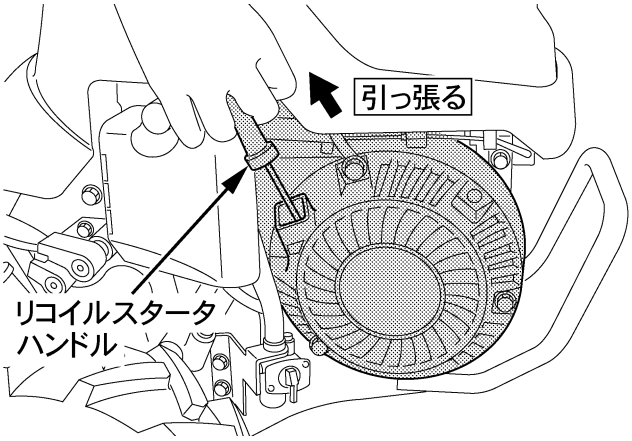
■エンジンスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。
（1）**［入］**の方向に回すと始動が可能です。
（2）**［切］**の方向に回すとエンジンが停止します。



■リコイルスタータ

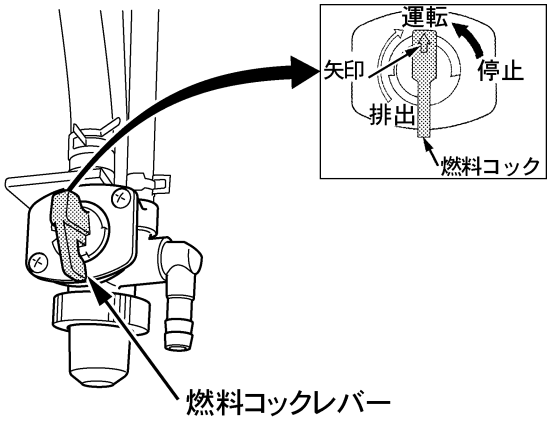
エンジンの始動をします。
（1）リコイルを引っ張ると始動します。



■燃料コックレバー

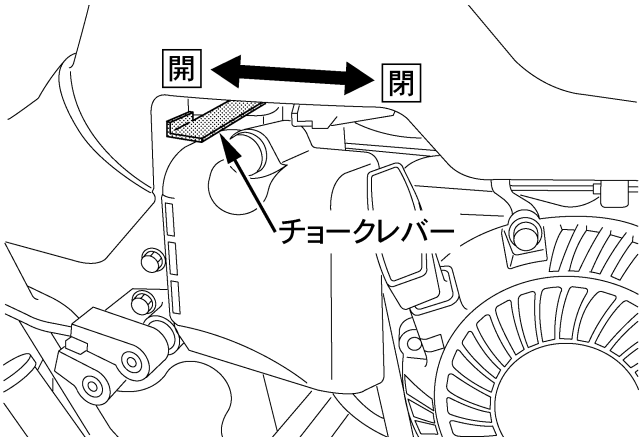
燃料タンクからエンジンへ燃料の**［供給］・［停止］**。気化器内の燃料を**［排出］**します。

（1）**［停止］（閉）**　　燃料停止
（2）**［運転］（開）**　　燃料供給
（3）**［排出］（ドレン）**　　燃料排出



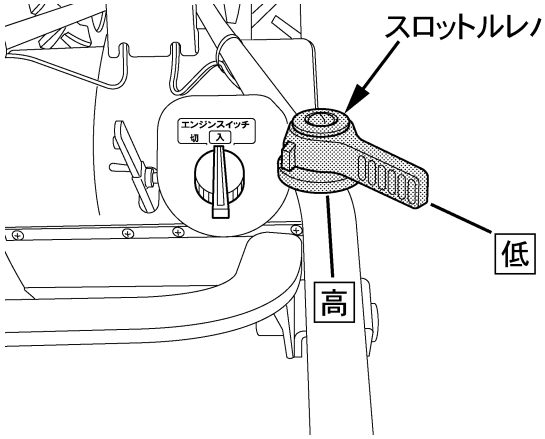
■チョークレバー

寒冷時にエンジンがかかりにくい時使用します。
（1）始動時
　　レバーをチョーク全閉位置にします。エンジンが暖かい時は**［全閉］**，**［全開］**の中間位置にします。
（2）始動後
　　レバーを徐々にチョーク**［全開］**の位置にします。



■スロットルレバー

エンジン回転の調節をします。
（1）**［高］**の方向に回すと回転が上がります。
（2）**［低］**の方向に回すと回転が下がります。



各部の名称とはたらき

■燃料キャップ

警　告

＊ 給油時はエンジンを停止し冷却を確認してください。

＊ 火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。

＊ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

＊ 燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。

＊ 給油後，燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください.

＊ 上記の作業をおこたると，爆発・火災のおそれがあります。

燃料の種類	規定容量
自動車用無鉛ガソリン	1.2L

重　要

＊ 燃料タンク内にゴミや水及びその他異物が混入しないように，注意してください。

■マフラ

注　意

＊ マフラに手で触れないでください。ヤケドをするおそれがあります。

作業前の点検

警　告

＊ 給油中はエンジン停止・火気厳禁。くわえ煙草での給油はしないでください。

＊ 燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。

＊ 平たんな場所に機械を安定させて点検してください。

＊ 給油後，燃料キャップは燃料がもれないよう，しっかり締めてください。

■調子良く作業するために

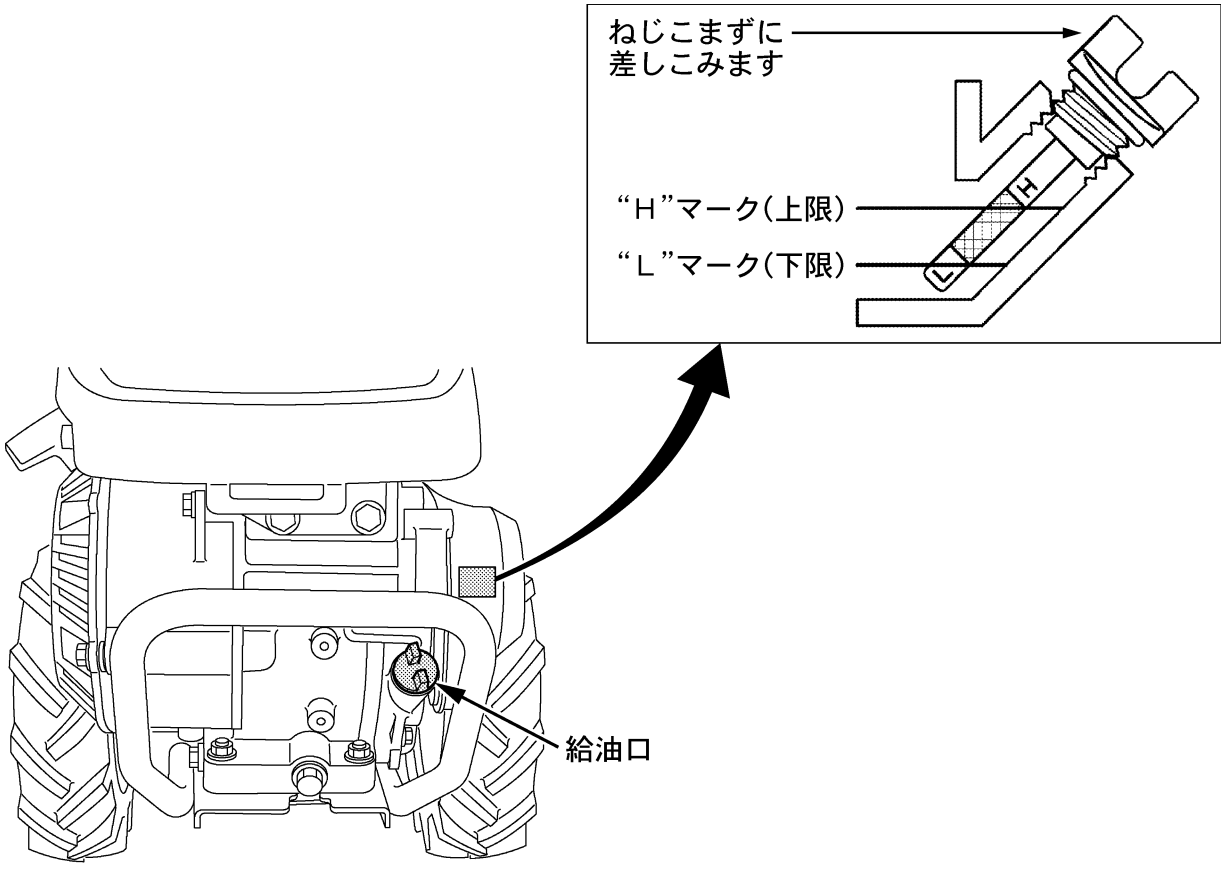
（詳細は**［ロータリ専用機の簡単な手入れと処置］**の項参照）

◆燃料

●自動車用無鉛ガソリンを補給します。
●タンク容量……約 1.2L

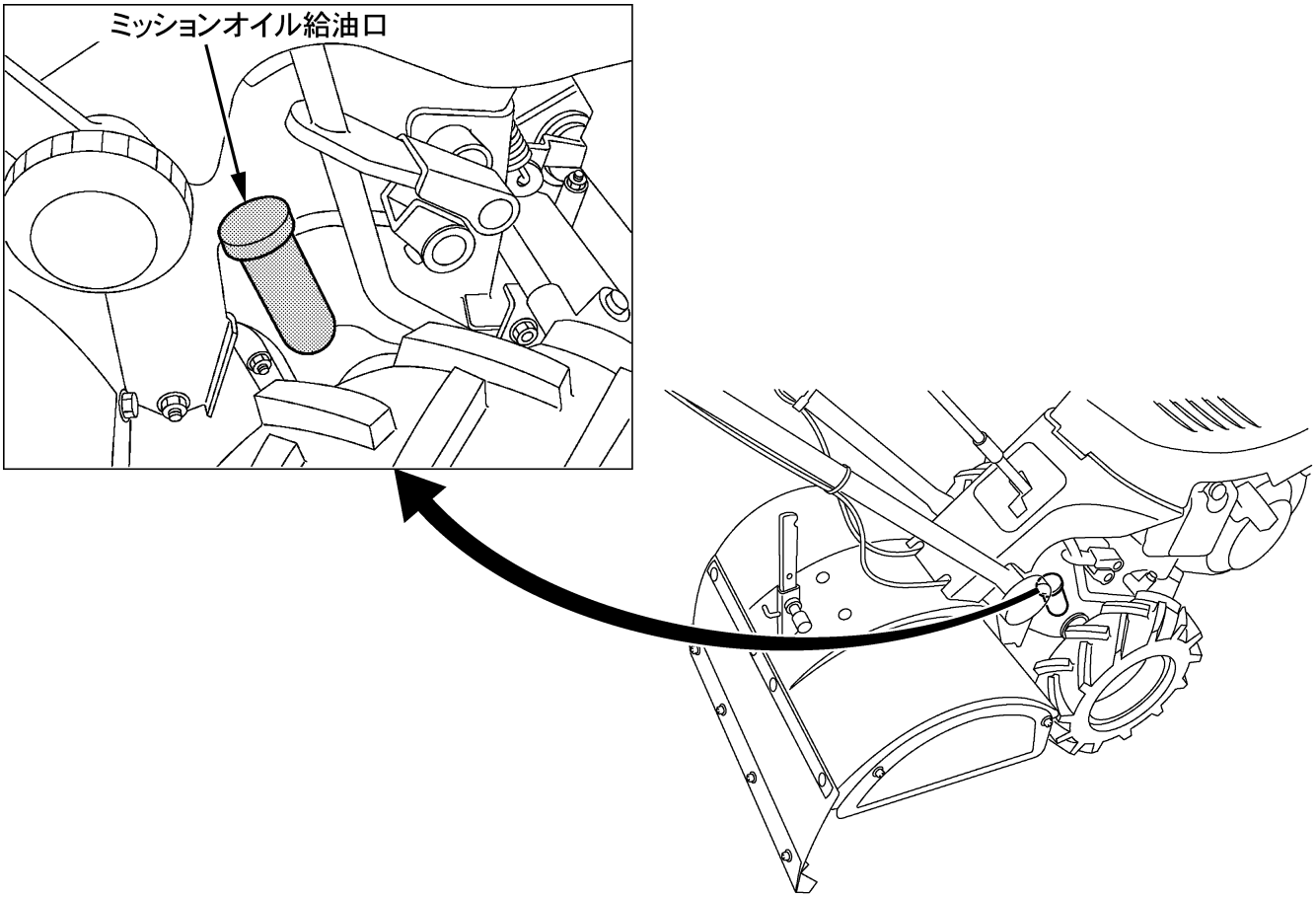
◆エンジンオイル

●エンジンを水平にして，オイルゲージで規定量あるか点検します。
●不足している場合は，クボタ純オイルを補充します。
（クボタ純オイルスーパー G 10W-30）



◆ミッションオイル

●ロータリ爪接地状態で給油口のパイプの中に見えているか点検します。
●不足の場合は，見えるまで，クボタ純オイルを補充します。
（クボタ純オイルスーパー G 10W-30）
＊本機のミッションはエンジンオイルを使用しています。



◆エアクリーナ

●フォームエレメントが汚れていないか点検します。
●ペーパーエレメントにほこりが付着していないか点検します。

◆タイヤ

●空気が抜けていないか，また損傷がないか点検します。

◆各ケーブル

●ケーブル注油部より，エンジンオイルを注油します。

◆その他

●エンジン，ミッションなどから油もれがないか点検します。
●各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
●各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

運転のしかた

■エンジンの始動のしかた

警　告

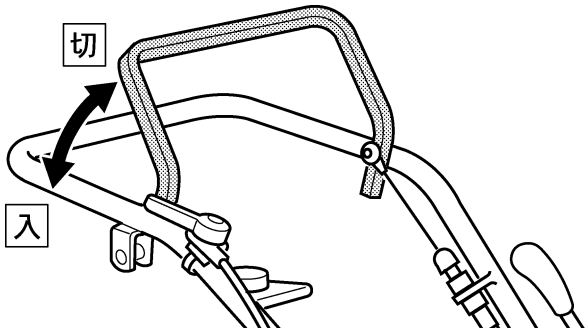
＊ マフラの排気出口方向に，燃えやすい物がないか確認してください。

＊ リコイルスータを引っ張る方向に人がいないか，突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。

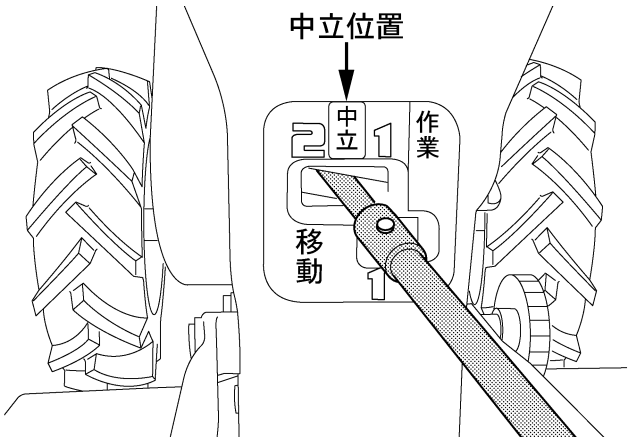
＊ エンジンの運転中は，危険ですからマフラやそのほか操作レバー以外の物には，触れないでください。

＊ 夜間作業はしないでください。

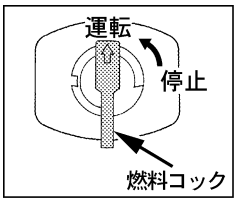
1. 主クラッチレバーを**［切］**にします。

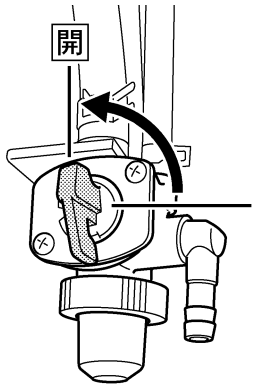


2. 変速レバーを**［中立］**にします。

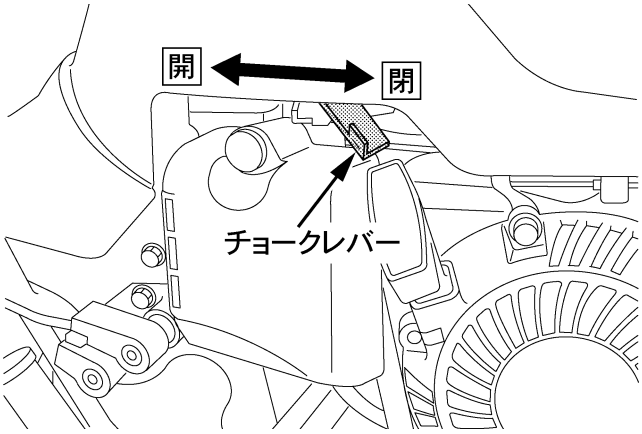


3. 燃料コックを**［運転］（開）**にします。

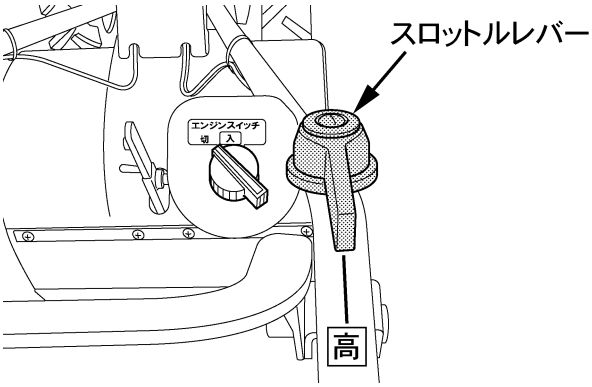




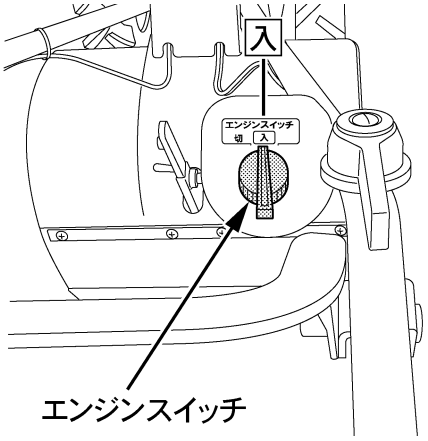
4. チョークレバーを引き**［閉］**にします。



5. スロットルレバーを**［高］**にします。



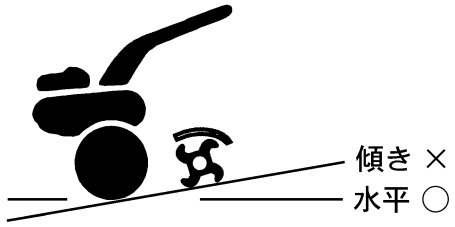
6. エンジンスイッチを**［入］**にします。



7. リコイルスタータハンドルを握って，勢いよく引っ張ります。
   エンジンが始動したら，リコイルスタータハンドルを静かに元に戻してください。
8. エンジンの運転状態を確認しながら，チョークレバーを徐々に**［開］**の位置に戻します。
9. ２～３分暖気運転をしてから，作業を始めてください。

補　足

＊ 燃料を給油直後は，水平な所でエンジンを始動してください。
（傾いた所で燃料を補給すると，燃料チューブ内に空気が溜まり，燃料が流れず始動出来ない場合があります。こんな時は燃料コックレバーを［**排出**］にして，ドレン口から燃料を少量出して空気を抜いてから再度始動してください。）

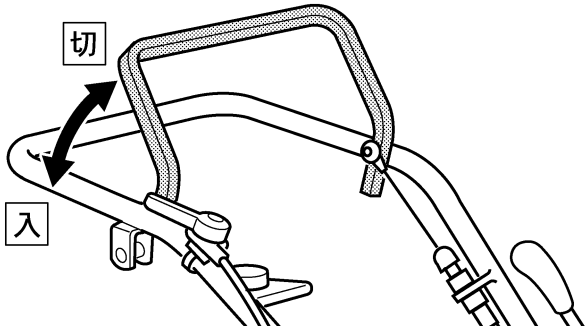


■エンジンの停止のしかた

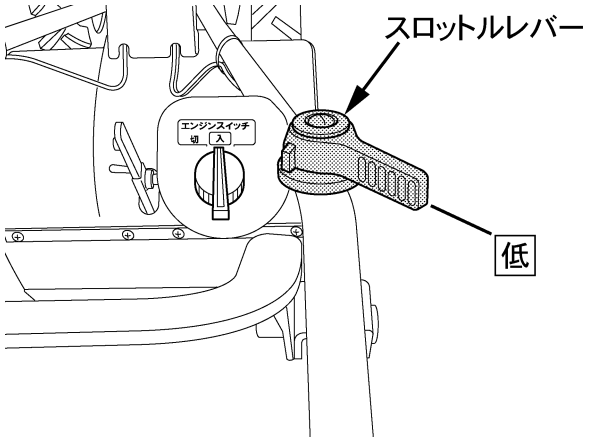
警　告

＊ 停止直後はマフラが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

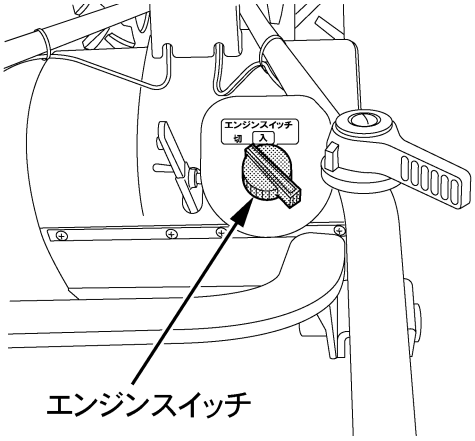
1. 主クラッチレバーを**［切］**にします。（手を離す）



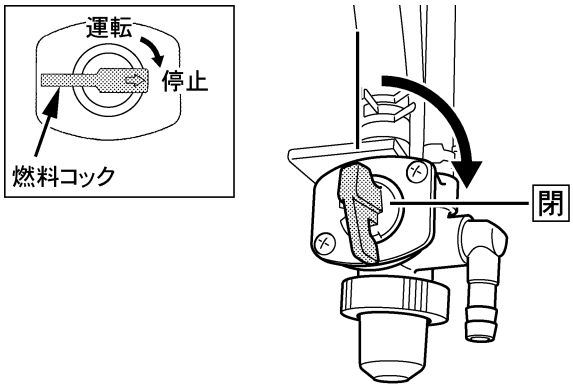
2. スロットルレバーを**［低］**にします。



3. エンジンスイッチを**［切］**にするとエンジンが停止します。



4. 燃料コックを**［停止］（閉）**にします。



■ロータリ専用機の発進のしかた

警　告

＊ 運転中は周囲に人を近付けないでください。

＊ 傾斜地を走行するときに，ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので，主クラッチをゆっくり操作してください。

＊ 狭い場所での運転については，エンジンの回転を低速にし，後方や上方などまわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操作をしてください。

＊ 危険を感じたら，早めに手を離してください。

1. 主クラッチレバーが**［切］**の位置にある（手を離した状態）ことを確認した後，変速レバーを必要な変速位置にします。
2. 主クラッチレバーを**［入］**（握った状態）にすると発進します。

■ロータリ専用機の停止のしかた

1. 主クラッチレバーから手を離すと自動的にクラッチが切れて動力の伝達が停止します。

■ならし運転（最初の 10 時間まで）

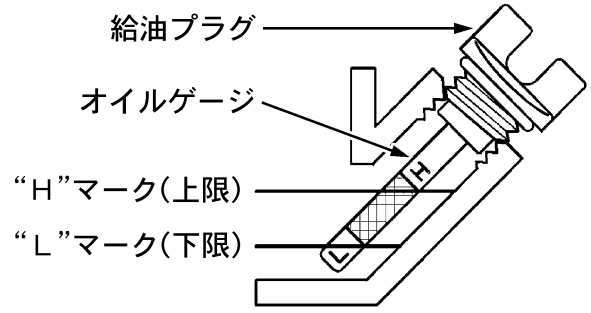
この期間中は各部になじみをつけるため，エンジンを高速回転させたり，過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

ロータリ専用機の簡単な手入れと処置

■エンジンオイル

◆給油

1. エンジンを水平にしオイルゲージで確認してから給油してください。給油プラグは給油口にねじこまず差しこみエンジンオイル量を点検します。又、オイルの給油容量はオイルゲージ部分にある文字“H”と“L”の中間位置にオイルが来るようにしてください。
“H”の線を越えない（入れ過ぎ）ようにしてください。



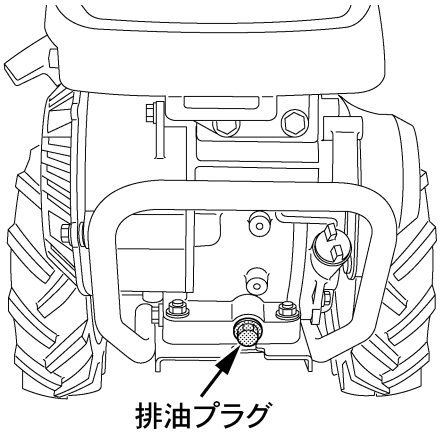
重　要

＊ 粗悪なオイルを使用しますと，エンジンの寿命を急激に縮めますので，販売店・農協でクボタ純オイルスーパー G 10W-30 とご指定の上，お求めください。(下表参照)

◆排油

1. 機体を水平に安定させプラグを外し，排油してください。

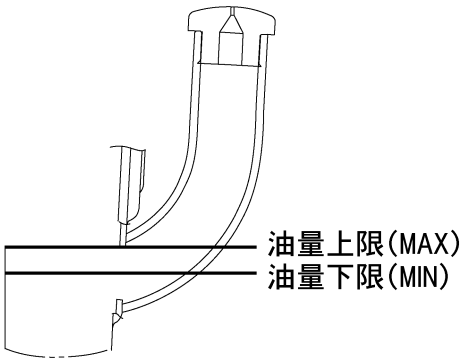
＊ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



■ミッションオイル

◆給油

1. 機体を水平にし，給油口のパイプの中にオイルが見えるまで給油してください。



＊ 本機のミッションはエンジンオイルを使用しています。

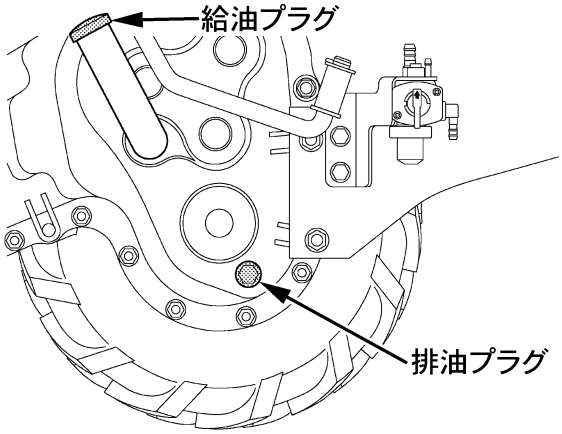
◆排油

1. 排油プラグを外して排油します。

重　要

＊ 粗悪なオイルを使用しますと，機械の寿命を急激に縮めますので，販売店・農協でクボタ純オイルスーパー G 10W-30 とご指定の上，お求めください。(下表参照)

＊ 排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。



＊ オイルを交換する場合は，まず旧油を排出しますが，ケース内のゴミも同時に排出させるために，できるだけ運転使用後，オイルが暖まっている状態の時排出してください。

＊ 排出した旧油は空地に捨てたりせず，適切な処理をしてください。(17頁の**[廃棄物の処理について]**の項参照)

オイルの点検と交換表

項目 (オイル量)	点検方法	交換		オイルの種類
		第一回目	以後	
エンジンオイル (0.46L)	機体水平	20 時間 使用後	50 時間 使用後	クボタ純オイルスーパー G 10W-30 (ガソリンエンジン用)
ミッションオイル (1.3L)	機体水平	20 時間 使用後	年一回	クボタ純オイルスーパー G 10W-30 (ガソリンエンジン用)

■エアクリーナエレメントの清掃

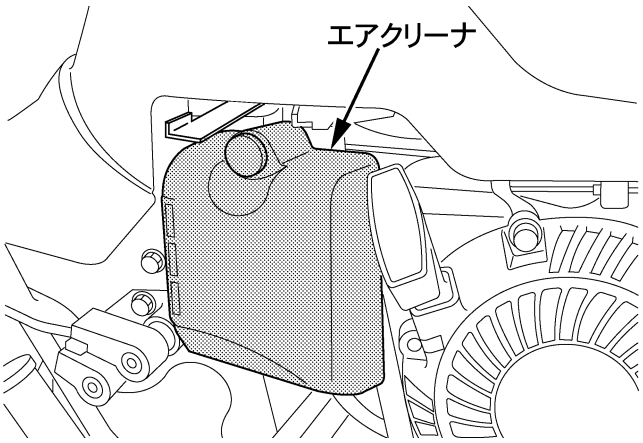
1. フォームエレメントは石鹸水を入れた槽の中で洗浄し，圧搾空気を当てるか，振って乾かしてください。清掃後，きれいなエンジンオイルを染み込ませしぼってから乾かしてください。
2. ペーパーエレメントは平面上に置いて軽く叩き，ほこりを落としてください。(圧搾空気は使わないこと。オイルに浸さないこと。)

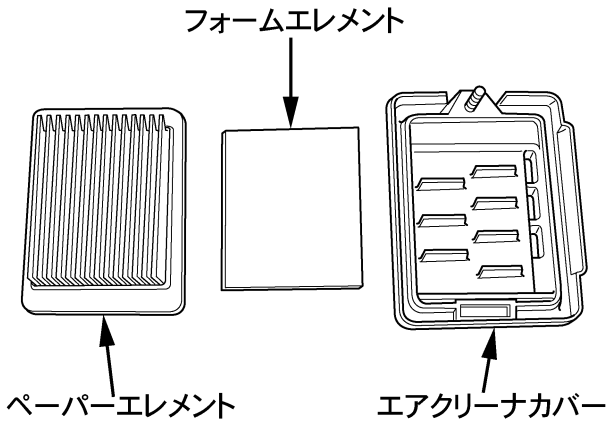
重　要

＊ 汚れたまま使用しますと，エンジンの出力低下や故障の原因になります。

25 時間使用ごと	フォームエレメントの清掃
50 時間使用ごと	ペーパーエレメントの清掃
200 時間使用ごと	ペーパーエレメントの交換

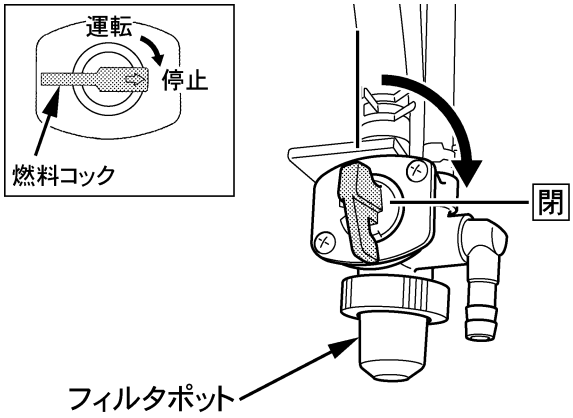
☆ほこりの多い環境では，さらにひんぱんに行ってください。





■フィルタポットの清掃

ポット内に水やゴミがたまっているときは，燃料コックレバーを**［停止］(閉)**にして，フィルタポットを取外しガソリンできれいに洗浄してください。

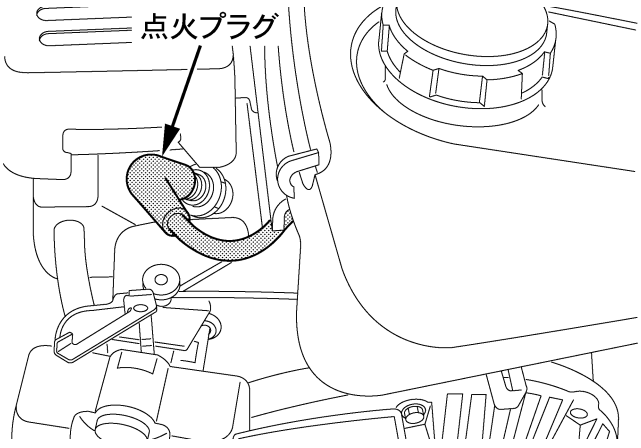


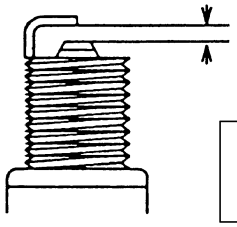
重　要

＊ 取付け時，燃料もれのないように確実に締付けてください。

◆点火プラグの調節・清掃

1. プラグ用ボックススパナでプラグを外して，清掃します。プラグはボンネットを外して取出します。
2. 電極のすきまが 0.6 ～ 0.7㎜ になるように調節してください。
3. 点検調節は６ヶ月に１回行ってください。





使用点火プラグ	NGKB6HS

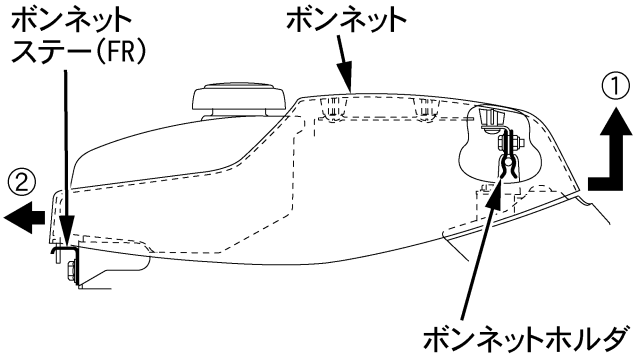
重　要

＊ 締付け時は，ネジ山をつぶさないように，はじめ手で締め込んでから，ボックススパナで締付けてください。

◆ボンネットの外しかた

① ボンネットホルダ側の先端に手を掛けて，軽く持ち上げてください。

② ボンネットホルダ側が外れたら，ボンネットを前に移動して，ボンネットステー（FR）から抜いて外してください。



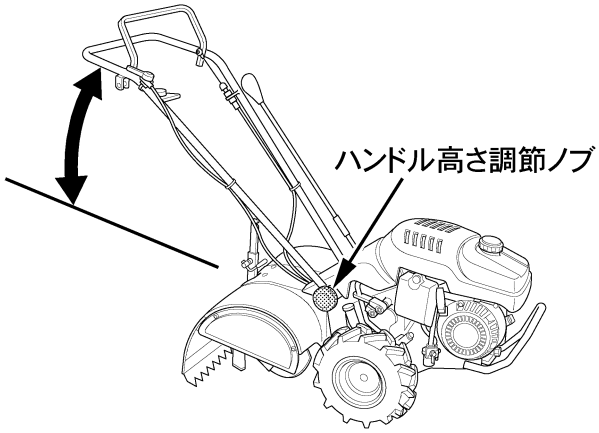
◆ボンネットの組付けかた

ボンネットの組付けかたは、外しかたの逆の手順で行なってください。

■ハンドル位置の調節

◆ハンドルの上下調節

ハンドル高さ調節ノブを４～５回転ゆるめて，希望する高さに調節してください。



重　要

＊ 調節時は，ハンドルを支えながらノブをゆるめてください。ハンドルが自重で下がりカバーなどを痛めます。

■主クラッチの調節

警　告

＊ 調整と各部の締付けが終わると，主クラッチレバーを［切］・変速レバーを［中立］にしてエンジンを始動します。主クラッチが［入］の時にベルトが作動し［切］の時に停止するか確認してください。

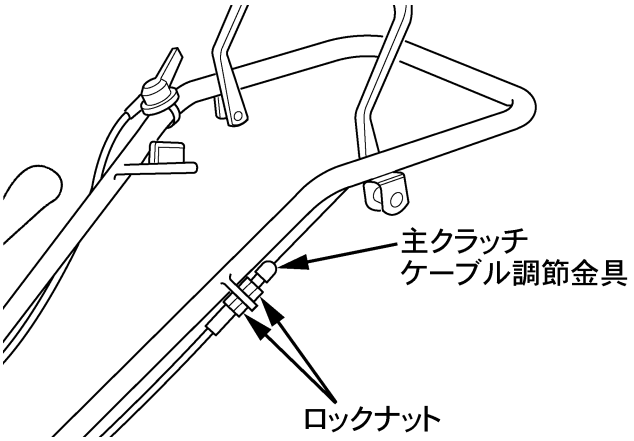
＊ 調節・交換が終わったら，必ずエンジンを停止してベルトカバーを取付けてください。

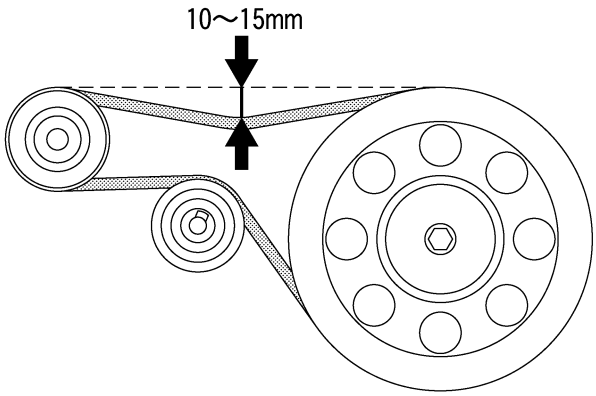
主クラッチレバーは，運転操作の源となる重要なレバーです。確実に断続できるように，次のことがらについて調整してください。

◆主クラッチケーブルの調節

1. 主クラッチレバーを握ってもベルトがすべって動力を伝えない時……調節金具を長くする。
2. 主クラッチレバーを離してもベルトが連れ回りして，タイヤやロータリ爪の回転が止まらない時……調節金具を短くする。

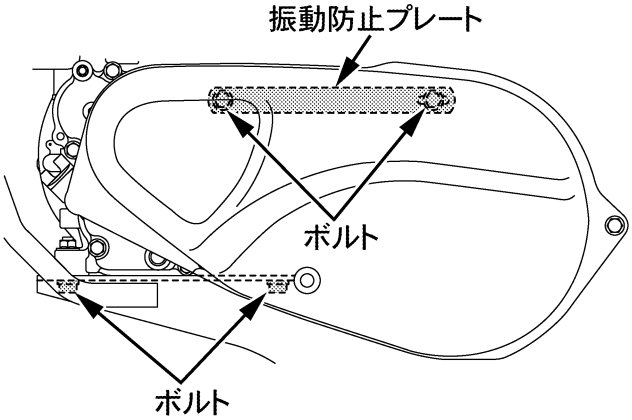
適正なベルトの張り	主クラッチレバーを握った状態でベルト中央部を指先で押えてベルトが10～15㎜たわむ程度。





◆エンジン前後によるベルトの調節

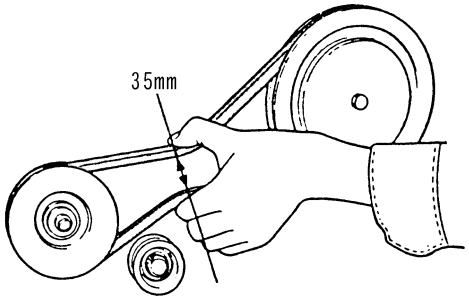
ベルトが伸びてケーブル調節で対応できない場合は，エンジン固定ボルト４本と振動防止プレートの固定ボルト２本をゆるめて調節してください。調節後は確実にボルトを締めてください。



● エンジンを移動させた場合，主クラッチの調節をやりなおしてください。

◆新しいベルトに交換する場合

新しいベルトに交換する場合は，ベルト中央部を指ではさんですき間が約 35㎜ たわむくらいにして，エンジン固定ボルトを締め付けてください。



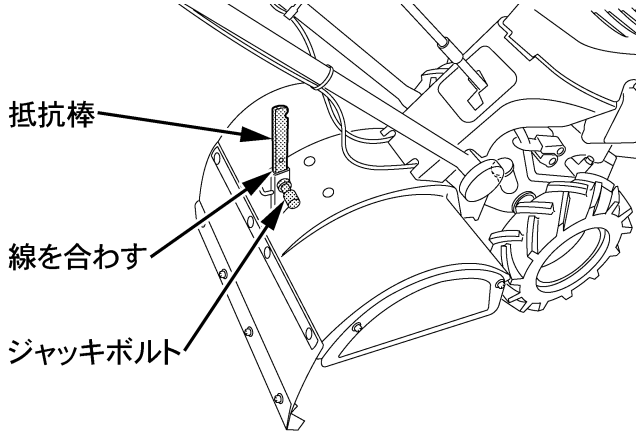
■抵抗棒位置の調節

警　告

＊ 抵抗棒の調節時は，エンジンを停止してください。

抵抗棒は，耕深を決める装置です。ほ場の硬さや必要な耕深によって調節してください。調節は，ジャッキボルトをゆるめ抵抗棒の後部の線をカバー上端に合わせジャッキボルトを締め上げます。

（1）上の線……浅く耕したい時（ロータリ正転）
（2）中の線……標準です。（ロータリ正転）
（3）下の線……深く耕したい時（ロータリ正転）



重　要

＊ 調節後は，ジャッキボルトを確実に締めてください。

■培土機の取付けかた

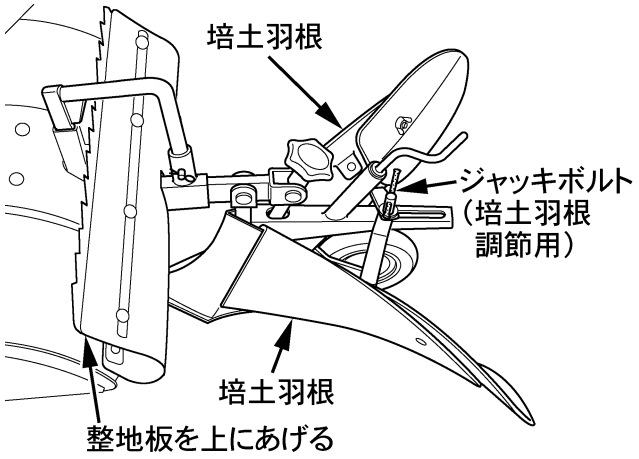
警　告

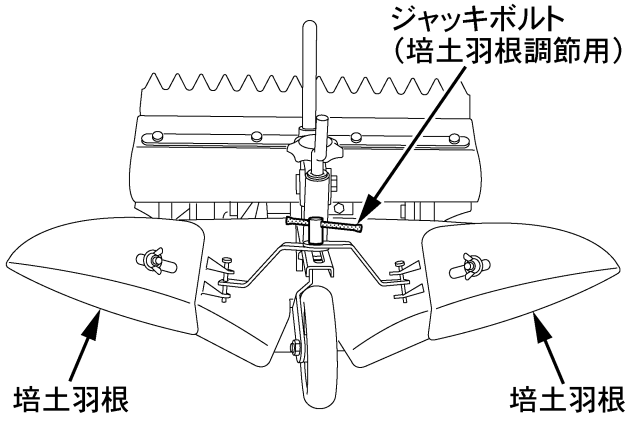
＊ 培土機の取付け時は，エンジンを停止してください。

培土機は抵抗棒を外して取付けます。培土機の取付棒は下まで入れてください。爪先端と培土機の最低部とのスキマは５～ 10㎜ になっています。

重　要

＊ 調節後は，ジャッキボルトを確実に締めてください。
＊ 取付け時は，整地板を上にあげて培土機を挿入してください。





＊ 畦の大きさは，ジャッキボルトをゆるめて培土羽根を開閉して調節します。

■耕うん爪の取付けかた

警　告

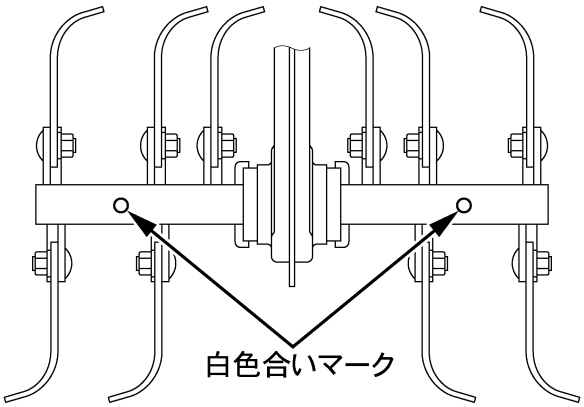
＊ 爪の交換時は，エンジンを停止してください。

＊ サイドカバーを外した時は，危険ですから必ず，爪交換後サイドカバーを確実に取付けてください。

耕うん爪は作業する上で，最も大切な装置です。作業を始める前に必ず点検し，磨耗が多い場合は早めに交換してください。又，爪の取付けボルトがゆるんだまま使用しますと，機械の故障の原因になったり爪が脱落します。作業前に，必ずボルトを増し締めしてください。

◆耕うん爪は，下図のように取付けます。

1．標準仕様（A）



重　要

＊ 爪軸を取付けるときは，白色合いマークを合わせてください。
＊ 爪を交換後は，ボルトを確実に締めてください。

◆締付けトルク

48.0 ～ 55.9N･m

■長期格納時の手入れ

30 日以上使用しない場合は，次の手順で処置をして保管してください。

1．主クラッチレバーは［切］の位置で保管します。
2．燃料は全部抜き取っておきます。
3．オイルを交換し，各部をきれいに掃除します。
4．エアクリーナエレメントを，掃除しておきます。
5．エンジンのシリンダ内に湿気が入って，始動が困難になるのを防止するため，リコイルスタータハンドルを引っ張って，圧縮位置で止めておきます。
6．カバーをかけ，湿気やホコリのない場所に置いてください。カバーは，エンジンが冷えていることを確認した上で，かけてください。

■タイヤ空気圧の調節

空気圧が高過ぎても低過ぎても，タイヤの寿命を縮めます。
定期的に空気圧を調べ，適正になるように調節してください。
空気入れは，自動車用などの高圧式をご使用ください。

適正空気圧	1.2 ～ 1.4kg ／ cm^2

■使用後の清掃

使用後は，必ずその日に清掃を行ない，各部に付いている土やゴミを落とし，各しゅう動部は錆びないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと，エンジンの焼付きなどの原因になりますので，よく点検・清掃を行なってください。

■燃料の抜取り

警　告

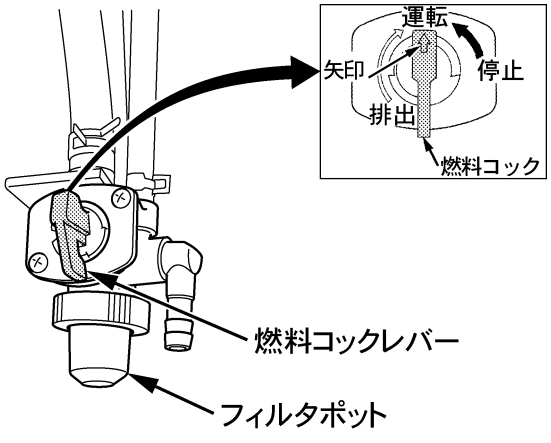
＊ 燃料を抜く時は火気厳禁，風通しのよい所で行なってください。

＊ 燃料がこぼれた時はきれいにふきとってください。

＊ 燃料パイプは自然劣化したり傷があると，ガソリン漏れして火災の原因となります。ヒビ割れが発生したものは新しい燃料パイプと交換してください。

燃料をそのままにしておきますと，タンクや気化器内のガソリンが変質し，始動不良・運転不調になります。

1. 燃料コックを**［停止］（閉）**にし，フィルターポットを取外します。
2. 燃料コックの下に燃料受け容器を置き，コックを**［運転］（開）**にして，燃料タンク内のガソリンを抜き取ります。
3. フィルターポットを燃料コックに取付けます。
4. 燃料受け容器を置き，コックを**［排出］（ドレン）**にして，気化器内のガソリンを完全に抜取ります。



■車両で運搬する時の注意

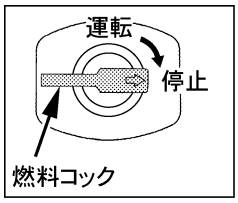
重　要

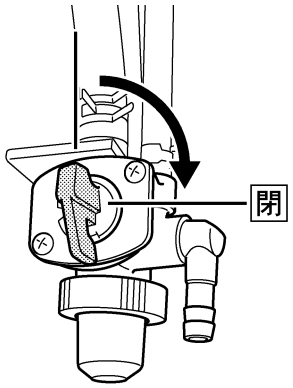
＊ 燃料コックレバーを**［停止］（閉）**にしてください。

燃料コックレバーを**［停止］（閉）**にしないで運搬した場合，次の現象が生じます。

- 機体の振動で気化器の針弁が振れる。
- エンジンクランクケース内へ燃料が流入する。
- エアクリーナに燃料が流入する。

などからエンジン始動が困難な場合がありますので，必ず**［停止］（閉）**にしてください。





■廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

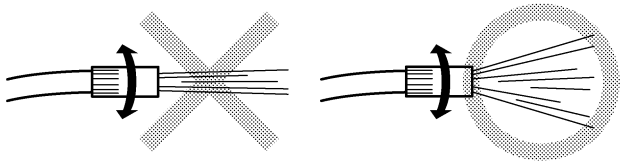
注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m 以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1. **電気配線部被覆の損傷･断線により，火災を引き起こすおそれがあります。**
2. **油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**
3. **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**

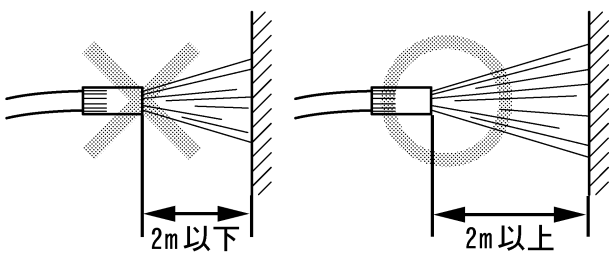
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電子部品，エンジン・トランスミッション室内，安全キャブ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂類，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

直射洗車厳禁



1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

付表

主要諸元

型　式　名			クボタ　TR300
機体寸法	全長	(mm)	1240
	全幅	(mm)	475
	全高	(mm)	1040
	機体質量（重量）	(kg)	48
エンジン	型式名		FJ100D
	種類		空冷４サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン
	総排気量	(L {cc})	0.098 (98)
	連続定格出力	(kW {PS} /rpm)	1.5 {2.1} /3600
	最大出力	(kW {PS})	2.2 {3.0}
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	(L)	1.2
	始動方式		リコイルスタータ式
走行部	車輪（タイヤ）		3.25-5
	輪距	(mm)	350
	主クラッチ方式		ベルトテンション式
	操向クラッチ方式		無
	変速段数	(段)	前進２
	走行速度　前進	(km/h)	0.52 ～ 4.00
	車軸の形状・寸法	(mm)	丸軸・直径 20
ロータリ	駆動方式		センタードライブ
	変速段数	(段)	正転１
	爪軸回転速度	(rpm)	正転 127
	耕幅	(mm)	400
	爪回転径	(mm)	280
	爪軸の形状・寸法	(mm)	丸軸・直径 20
	ロータリカバー形状		固定式

走行速度一覧表

変　速		km/h (m/分)
前進１		0.5 (8.7)
前進２		4.0 (66.7)
条件	定格回転数 (rpm)	3600
	プーリ外径 (mm)	φ60.5 － φ177
	タイヤ	3.25 － 5

付表

主な消耗部品一覧表

●本機関係

品　　名	品　番	数量	備　　考
V ベルト（SA － 34）	60751-41171	1	
ケーブル（メインクラッチ）	LK381-24141	1	
ケーブル（ハイブリッド）	LK381-24151	1	
アタマツキピン	05122-50835	2	タイヤ取付用
スナップピン	05515-50800	2	タイヤ取付用
シャジクピン	61141-17131	2	爪軸取付用
スナップピン	05515-50800	2	爪軸取付用
コウウンヅメ（33 ヒダリ）	60751-32231	5	
コウウンヅメ（33 ミギ）	60751-32241	5	
ツメトリツケボルト	91201-11471	10	爪取付用
バネザガネ（M10）	04512-50100	10	爪取付用
ナット（M10）	02118-50100	10	爪取付用

●エンジン関係

品　　名	品　番	数量	備　　考
スパークプラグ	E1189-16141	1	
フォームエレメント	E1189-22141	1	
ペーパーエレメント	E1189-22131	1	

標準付属部品

品　　名	数量／台	備　　考
プラグボックス	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　ー		
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	白山市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
米子営業技術推進部：電(0859)39-3181	〒689-3547	米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１
本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市桜区西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970	〒661-8567	尼崎市浜１丁目１番１号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

製造元　**関東農機株式会社**

本社工場　栃木県小山市大字横倉新田493　TEL　0285(27)3271　FAX　0285(27)4627

TR300

AJ．L．6-7．8．AK